

- 山口県で育成した「西京の初夏」は、極早生のりんどうで、従来品種と比較して、**西南暖地でも株の残存率が高く**、本県の水田転作作物として期待。
- 山口県では、「西京の初夏」の導入を提案し、**栽培マニュアル作成等の技術支援を実施**するとともに、露地栽培においては、**国内で最も早く出荷が始まる品種**として、実需者へのPRを実施し県内外での取り扱いを検討するために部会を設立。
- その結果、**りんどう作付面積が増加する**とともに、県内外で認知される等、産地収益力が向上。

具体的な成果

普及指導員の活動

1 オリジナルりんどう「西京の初夏」の増加

■新規産地が育成され、農家の収益が向上(H25→H28)

①作付面積

H25:0.8ha、H26:1.1ha、H27:1.8ha

H28:2.2ha

②販売本数

H25:20千本、H26:60千本H27:68千本

H28:120千本

2 極早生品種商品の定着化

■露地栽培では国内で最も早く出荷されるりんどうのPRを実施し、県内外花き市場の取り扱いが増加

■花卉商組合と連携した、消費拡大PRの実施

①「西京の初夏」取り扱い市場

3市場 → 6市場

②県ブランド商品

「やまぐちブランド」に登録



3 契約取引による経営安定化

■一定価格での契約取引が試行され、**農家経営の安定化**

■安定取引の継続に向けた出荷量や価格の調整会議が定例化



平成26年

■新規作物の安定生産のため、普及指導員の呼びかけで、生産者、JA、行政、花き市場からなる「やまぐちオリジナルりんどう研究会」を開催

■「西京の初夏」の導入を推進決定

平成27年

■**「西京の初夏」の実証ほの設置、栽培マニュアルの作成、先進地視察等により、地域に定着**

■「西京の初夏」の導入を集落営農法人へ推進

平成28年

■**「西京の初夏」の導入を集落営農法人へ本格推進**

■「西京の初夏」のブランド力向上を図るため、県、農協、花き市場、花卉商組合等からなる**「やまぐちオリジナルりんどう部会」**を設立

普及指導員だからできたこと

・技術を持ち、試験場や他県の技術を知る普及指導員だからこそ、新規作物であるオリジナルりんどうを提案し、地域に適した栽培方法を定着させることができた。

・オリジナルりんどう推進のため、県農林事務所、全農山口、各JA、集落営農法人との連携を図り推進できた。

山口県

オリジナルりんどう「西京の初夏」の産地拡大

活動期間：平成 26 年度～平成 28 年度

1. 取組の背景

山口県で育成した「西京の初夏」は、極早生のりんどうで、従来品種と比較して、西南暖地でも株の残存率が高く、本県の水田転作作物として期待されていた。

山口県では、国内の露地栽培で最も早く出荷が可能である「西京の初夏」の導入を提案し、栽培マニュアル作成等の技術支援を実施するとともに、部会を新たに設立し、実需者へのPR方法や県内外での取り扱いを検討した。

その結果、りんどうの作付面積が増加するとともに、県内外で認知される等、産地収益力が向上した。



2. 活動内容（詳細）

(1) 平成 26 年

新規作物の安定生産のため、農林総合技術センター、普及指導センターの呼びかけで、生産者、JA、行政、花き市場からなる「やまぐちオリジナルりんどう研究会」を開催し、「西京の初夏」の導入を推進した。

新規栽培者の技術向上のため、栽培技術研修会「りんどうコース」を開催し、定植から管理・出荷にいたるまでの研修を実施した。

※平成 26 年度 新品種・新技術活用型産地育成事業

(2) 平成 27 年

初期生育確保のための実証ほを設置し、実証結果を踏まえた栽培マニュアルの作成、岡山県や岩手県等への先進地視察により、地域への定着を試みた。

「西京の初夏」の導入を個人生産者だけでなく、集落営農法人へ推進することでさらなる産地拡大を目指すことを決定した。

※平成 27 年度 新品種・新技術活用型産地育成事業

(3) 平成 28 年

JA山口中央会等が開催する、集落営農法人研修会で作付推進を図るなど、県内全域へ本格的に推進をかけた。

ブランド力向上を図るため、県、農協、花き市場、花卉商組合等からなる「やまぐちオリジナルりんどう部会」を設立し、栽培から販売に向けた協議を本格的に実施した。

3. 具体的な成果（詳細）

(1) オリジナルりんどう「西京の初夏」の増加

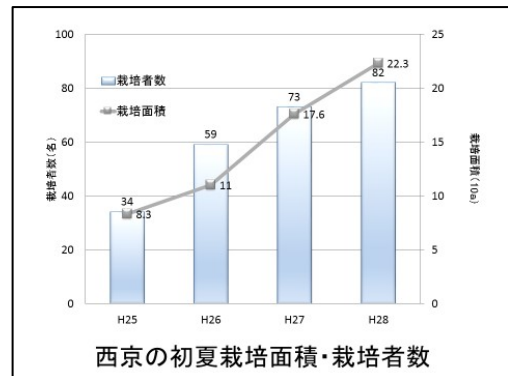
新規産地が育成され、農家の収益が向上(H25→H28)

① 作付面積

H25:0.8ha、H26:1.1ha、H27:1.8ha
H28 : 2.2ha

② 販売本数

H25:20 千本、H26:60 千本
H27:68 千本 H28 : 120 千本



(2) 極早生品種商品の定着化

露地栽培では国内で最も早く出荷されるりんどうとして PR を実施し、県内外花き市場での取り扱いが増加
花卉商組合と連携した消費拡大 PR の実施

① 「西京の初夏」取り扱い市場

3 市場 → 6 市場
県内 3 市場から県外市場での
取り扱いが開始

② やまぐちブランドへの登録

やまぐちの農林水産物需要拡大
協議会が一定の基準に適合したも
のを厳選登録した商品

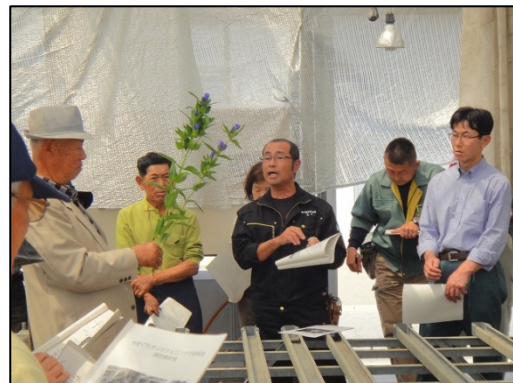


(3) 契約取引による経営安定化

① 一定価格での契約取引の試行により、農家の経営安定化の取組開始
大手花き小売店での一定価格での取引の試行を実施

② 安定取引の継続に向けた出荷量や価格の調整会議の開催

生産者、J A、市場と連携した価
格安定のための協議を実施



4. 農家等からの評価・コメント

(やまぐちオリジナルりんどう部会会長 周南市藤井氏)

りんどうは地域に適しており、露地で栽培できるため大がかりな施設がいらない。さらに、軽量であるため高齢者や女性でもできる魅力的な花。そのなかでも山口県産の「西京の初夏」は株の残存率が高く、生育も旺盛で育てやすい。県オリジナル品種で、全国的に一番早く咲くという点も魅力的で、この地域らしい作目を探しているときにピッタリの花だった。最初は少人数のグループだったが仲間も増えてきて、みんなで産地づくりに取り組んでいる。年々、苗の品質が向上し、安定供給されている点も評価できる。地元産の鮮度の良いりんどうは花市場でも評価が高く、出荷を望まれていることも誇らしいと思う。

5. 普及指導員のコメント

(周南農林事務所農業部 主任 松井香織)

「西京の初夏」を推進していく中で、周南農協の花き部会の中に、りんどうグループが設立され、りんどうに特化して学んでいく場ができた。定期的にグループ会での報告会・意見交換や現地巡回を行い、技術研鑽に取り組んでいる。その際、花き振興センターを中心に作成した栽培マニュアルを参考にして現地指導にあたっており、速やかな課題解決につながっている。また、県域のやまぐちオリジナルりんどう部会の研修会の内容を受けてりんどうグループ会を開催するので、県全体の動きが把握しやすく、産地に良い刺激を与えることができている。流通面では、出荷規格の改善や計画的な安定出荷に向けて花市場を含めた関係機関で協議を行っている。地元花市場も積極的に参加して、出荷目合わせ会や反省会を開催するなど、市場のりんどう生産への期待も大きい。

6. 現状・今後の展開等

山口県では、当初中山間地域のみへのりんどう推進を図っていたが、オリジナルりんどうが耐暑性に優れていることから、県内全域へのりんどう推進が可能となった。オリジナルりんどうの作付面積は順調に増加しており、集落営農法人の経営品目の一つとして、認知されてきた。

また、オリジナルりんどう「西京の初夏」に続く品種として、「西京の涼風」「西京の夏空」という品種を育成している。両品種とも西南暖地において株の残存率等既存品種と比較し優れており、生産農家への導入が進んでいる。今後、品種の特徴を生かした作型の組み合わせにより、長期間にわたる継続安定出荷を行い、さらなる産地収益力の向上に寄与したい。